

タイトル	Ugari の学び～支援する国される国～		
名 前	宮田 学		
学 校 名	岸和田市立常盤小学校		
担当教科	—		
実践教科	総合的な学習の時間	時 間 数	2時間×4クラス
対象学年	6年生	対象人数	136人

カリキュラム案

(1) 実践の目的

Mr.Ugari (宮田 学) が教師海外研修で学んだことを、フォトランゲージや“Ugari の学び”を通じて、子どもたちと共有する。そして、日本が世界で最も支援を受けた国(2011年)であることを知り、自分が今できることについて考えるきっかけになって欲しい。

※ Ugari…トウモロコシの粉をこねたタンザニアの主食

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
第1時 テーマ：タンザニアってどんな国？！ ねらい：写真からタンザニアという国を想像する。	①ブレインストーミング アフリカ(タンザニア)のイメージと自分たちの国(日本)のイメージを考える。 ②フォトランゲージ ③グループで考えを発表する。 ④ Mr.Ugari の解説を聞く。 ⑤授業の感想を書く	ワークシート タンザニアの写真 ワークシート
第2時 テーマ：Ugari の学び ねらい：“Ugari の学び”を通じて、日本が支援される国である事実を知る。	①タンザニアと日本のイメージを発表する。 ② Ugari の学び ③グループで考えを発表する。 ④ Mr.Ugari の解説を聞く。 ⑤授業の感想を書く。	Ugari カード ワークシート パワーポイント ワークシート

実践授業の詳細

<第1時>

①ブレインストーミング

アフリカ (タンザニア) と日本のイメージをできるだけ多く考えさせた。

②フォトランゲージ

タンザニアで撮影した8枚の写真を用いてフォトランゲージを行った。写真は、学校の様子・食・水・日本とのつながりが分かるものを中心に選んだ。子どもたちには、写真の中で「どんな人が、どんなことをしているのか」を想像させた。また、状況を詳しく解説するように指示した。

※フォトランゲージ…写真を使った参加型のアクティビティ (開発教育協会ホームページを参照)



算数の授業の様子



水汲み場の様子



小学校で自己紹介する様子



数学の授業をする
青年海外協力隊



大阪の高校名が書かれた自転車



掃除をする子どもたち



ウガリを作る子どもたち



水汲みに行く子どもたち

③グループで発表する。

例：写真 (算数の授業)

(どんな人が) タンザニアの子どもたちが

(どんなことをしている) 先生が算数の授業をしていて、子どもたちがノートを書いている。

(解説) 手前にいる子どもがノートに黒板に書いてあるのを写している。黒板には、 $=$ () や $a b$ が書いてあるから算数だと思う。いすや机は木でできている。壁はコンクリートでできている。天井には、電気がない。

④ Ugari の解説を聞く。

写真の背景を簡単に説明した。青年海外協力隊が、医療支援、教育支援していることにも触れた。

⑤感想を書く。

子どもたちの感想

- 水くみは、子どもがやるのはタンザニアでは当たり前なんだなぁと思った。
- 教科書なしで勉強しているのが予想外だった。窓にガラスがないなんて…。
- 日本人が算数を教えていて驚いた。
- 生活などが貧しそうやけど、どの人もみんな笑顔やった。
- 日本は便利な国やけど、タンザニアはすごく困っている国だと思った。
- きれいでない水を飲んでいて、病気にならないんだろうか？
- 日本の自転車がタンザニアに！びっくり！
- 主食のウガリを食べてみたい。

第1時を終えての所感

フォトランゲージを終えた感想から、一部の子どもが、タンザニア＝貧しくてかわいそうな国というイメージで終わってしまった可能性があった。そこで、第2時の“Ugariの学び”で、支援する国“日本”と支援される国“タンザニア”が逆転することもあるという事実を考えることができるように、Ugariカードの内容を工夫した。

<第2時>

①前時のブレインストーミングの結果を発表する。

子どもたちのイメージは以下の通りである。前時に使ったフォトランゲージの写真をもとに、日本がタンザニアを支援（医療支援・教育支援）していることを確認した。まずは、支援する国“日本”支援される国“タンザニア”という構図を示すためである。

<タンザニアのイメージ>

1位 野生動物 2位 暑い 3位 黒人 4位 自然がいっぱい 5位 貧しい

<日本のイメージ>

1位 生活が豊か 2位 平和 3位 工業・医療 4位 地震 5位 長寿

② Ugari の学び

Ugariカードを、“日本に関するもの”と“タンザニアに関するもの”に分ける。グループで相談しながら、友だちと意見が違った場合は、ワークシートにメモするように指示した。Ugariカードの内容は、Mr.Ugariが、タンザニアで見聞きしたこと、帰国後に日本やタンザニアについて調べたことに基づいて作成した。

※ Ugariカードを作成するに際し“レヌカの学び”（開発教育協会ホームページを参照）を参考にした。

参考資料：Ugari カード

ア 水が出るじゃ口のことを魔法のじゃ口と呼ぶ。 Z	イ 朝の英語放送で英語を勉強している小学校がある。 I
ウ 5895mの山がある。 A	エ 注文した料理が出てくるとは限らない。 N
オ 知り合いには、必ずマラリアという病気にかかった人がいる。 T	カ 6.5人に一人は貧困層である。 N
キ バスは、時間ではなく満員になったら出発する。 N	ク 医者がいない診察室の前で患者が並んでいる。 I
ケ 世界中のいろんな料理を食べることができる。 O	コ 首都の年平均気温は22.8度である。 A
サ ODAの金額が、世界第5位の国である。(2011年) P	シ 電化率(電気がきてる割合)は14%である。 A
ス お米の生産量は、世界第9位の国である。(2009年) N	セ 国際的な支援を受けた国第1位の国である。(2011年) P

③グループで発表する。

グループで話し合った結果は、以下のようになった。

グループ	タンザニアに関するもの	日本に関するもの
A	ア ウ エ オ カ キ ク シ セ	イ ケ コ サ ス
B	ア ウ エ オ カ キ ク シ ス セ	イ ケ コ サ
C	ア ウ エ オ カ キ ク コ シ セ	イ ケ サ ス
D	ア ウ エ オ カ キ ク シ セ	イ ケ コ サ ス
E	ア ウ エ オ カ キ ク シ セ	イ ケ コ サ ス
F	ア エ オ カ キ ク コ シ セ	イ ウ ケ サ ス
G	ア ウ エ オ カ キ ク シ	イ ケ コ サ ス セ
H	ア ウ エ オ カ キ ク シ	イ ケ コ サ ス セ

※正しく集めれば、カードの右下のアルファベットは以下ようになる。

日本に関するもの：NIPPON タンザニアに関するもの：TANZANIA

グループの話し合いの中で意見が分かれた項目は、ウ、コ、ス、セであった。以下は、子どもたちの意見が分かれた理由である。

ウは、日本の富士山とキリマンジャロのどちらかで意見が分かれたから

コは、タンザニアは、もっと気温が高いと思ったから

スは、日本の主食はお米だから、もっと上位だと考えたから

セは、東日本大震災の影響のことを考えたから

また、自分たちが豊かだと思っていた日本が、貧しい国と思っていたタンザニアから支援されていた事に驚いていた。

カについては、すべてのグループがタンザニアのことだと考えたが、実際は日本のことである。相対的貧困率が先進国の中で第3位（2000年）であることに基づいている。（NHK地球データマップを参照）



④ Ugari カードの解説

(ア) A. タンザニア

タンザニア滞在中に青年海外協力隊に聞いた言葉である。蛇口があったとしても、日によって或いは時間によっては、水が出ないことが多い。

(イ) A. 日本（岸和田市立常盤小学校）

勤務校では、校内放送を使って英語の学習をしている。

タンザニアでは、中学校から授業はすべて英語で行われていることを紹介した。

(ウ) A. タンザニア

キリマンジャロのことである。キリマンジャロを知っている子どもはいたが、タンザニアにある山であることは知らなかったようである。

(エ) A. タンザニア

タンザニアで実際に経験したことである。料理が出てくるのに時間かかる上、注文とは全く違うものが出てくることもある。また、注文を紙に書く習慣がないため、一度に多くの注文をしないのが原則である。

(オ) A. タンザニア

タンザニア滞在中に青年海外協力隊に聞いた言葉である。実際に、「先週までマラリアで…」という隊員にも出会った。子どもたちには、虫よけスプレーや蚊帳でハマダラカ対策をしたことを紹介した。

(カ) A. 日本

相対的貧困率で考えると日本は6.5人に1人が貧困層ということになる。

(NHK 地球データマップを参照)

(キ) A. タンザニア

タンザニア滞在中に青年海外協力隊に聞いた言葉である。また、屋根の上まで人が乗っているバスの写真 (タンザニアを知るための60章の表紙) を提示した。

(ク) A. タンザニア

現地のJICA 専門家から聞いた話である。また、看護師をしている青年海外協力隊員がタンザニアの病院で活躍している様子も紹介した。

(ケ) A. 日本

大阪では、中華・イタリアン・フランス料理など、世界各国のレストランがある。家庭でも、カレーやパスタなど様々な国の食文化が混在している。

(コ) A. タンザニア

アフリカと言えば、暑いイメージがあるが、首都ドドマの年間平均気温は22.8度である。滞在は、7月下旬から8月上旬であったが、この時期は明らかに大阪の方が暑いと感じた。

(サ) A. 日本

ODA (政府開発援助) については、6年生の社会科で3学期に学習する。簡単ではあるが、日本が途上国を支援していることを紹介した。(詳しくは外務省ホームページを参照)

(シ) A. タンザニア

TANESCO (タンザニア電力供給公社) で聞いた話である。また、タンザニアでは頻繁に停電が起こり、信号機があっても点灯していない現実を目にした。

(ス) A. 日本

日本の主食はお米だから、もっと上位だと思っていた子どもも多かった。1位は中国、2位はインド、3位がインドネシアである。(外務省ホームページを参照)

(セ) A. 日本

8グループ中2グループが、日本に関するものだとしている。東日本大震災の影響について考えたグループである。タンザニアからも義援金や支援物資が届いたことを紹介した。(外務省ホームページを参照)

⑤授業の感想を書く。

子どもたちの感想

<タンザニアに関すること>

- 貧しい国ってというようなイメージがあったけど、日本のことを支援してくれていることを知って、とても優しい国だと思った。
- 暑いイメージがあったけど、そんなに暑くない。
- めっちゃ貧しい国かと思っていたけど、日本の東日本大震災の援助もしてくれたので、めっちゃ貧しい国じゃないんだとわかった。

<日本に関すること>

- 6.5人に1人は貧困層ということに驚いた。
- 東日本大震災があったから、世界中からいっぱい支援物資をもらっているのがびっくりした。
- 日本はもっと豊かな国だと思っていた。
- ぼくらの国が、世界で一番支援してもらっていたことに驚いた。

実践授業を通しての所感・反省と今後の展望

私は、タンザニア滞在中のある出来事から参加者から Mr.Ugari と呼ばれるようになった。10日間という限られた時間ではあったが、日本では経験できないことをタンザニアで Mr.Ugari として経験した。

帰国後に、実践授業の内容を模索している中で、タンザニアで Ugari 自身が見たこと、聞いたこと、感じたことを、そのまま子どもたちに伝えたいと考えるようになった。タンザニアという遠い国に行き、日本について自分自身について深く考えさせられたからである。

そして、この“Ugariの学び”が、子どもたちにとっても、アフリカや日本そして自分自身について考えるきっかけの一つになってくれたらと考える。また、支援する国“日本”と支援される国“タンザニア”という構図が時に逆転し、自分たちが豊かだと思っていた日本が、貧しいと思っていたタンザニアから支援を受けている現実をしっかりと見つめて欲しい。

授業後の感想にAさんが「タンザニアのことがたくさん知れてよかった。タンザニアのことだけでなく、タンザニア以外の国のことも、もっと知りたくなった。Mr.Ugari またお会いしましょう！」と書いてくれた。本実践の目的でもある“自分が今できることについて考えるきっかけ”になってくれたのではないかと考える。

研修中に訪問した学校の校長室に“Good teacher change the world”と書かれたポスターがあった。あのポスターを目に焼き付けて、ひとりでも多くの子どもたちが、世界に目を向けたり、人とのつながりを感じたりできるような授業実践を継続していきたい。

最後になったが、今回の研修を充実させることができたのは、多くの仲間のおかげである。JICA 関係者、現地コーディネータ、青年海外協力隊員の方々、明るいタンザニアの人々、そして楽しい時間を共に過ごした研修参加者の皆さんに深く感謝したい。Asante!





実践授業の様子

《参考文献》

地球データマップ NHK出版 2008 pp.40-41

タンザニアを知るための60章 明石書店 2006 表紙

外務省ホームページ 世界いろいろ雑学ランキング

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/world/ranking/index.html>

開発教育協会ホームページ <http://www.dear.or.jp/>